

はじめに

当協会は、21 世紀の大阪を文化によって世界都市にしようとする「大阪 21 世紀計画」の実現のため、その推進母体として産官学が一体となって 1982 年に設立されました。

設立以来一貫して「文化立都^[1]」を掲げ、その行動指針となるグランドデザインを策定してきました。現在は「グランドデザイン（第 3 次）」（2003 年）のもとに事業活動を展開していますが、時代背景も変化し、当協会も公益財団法人認定を機に関西・大阪 21 世紀協会として再出発したことから、改めて 2017 年度を起点とする「グランドデザイン（第 4 次）」を策定することとしました。

設立以来の基本である『文化立都』は不変の理念として継承し、あるべき都市像についても「グランドデザイン（第 3 次）」で掲げた「3 つの指針」と「8 つの都市像」を一定の評価を加えつつ継続継承いたします。その上で、より広域的な視点で新たな目標を付加し、当協会の立場から関西・大阪の各方面へ提唱を行い、当協会の活動についても新たな指針を加えて中期計画としてまとめました。

構成としては、関西・大阪が目指すべき方向についての提唱を述べ、続いて当協会が果たす役割とその行動計画について述べております。また、本文に加え資料編において、さらに詳述いたしました。

地域活性化のためには文化力を生かし高めてゆくことが重要であり、具現化に向けて各位の「連携と協奏」を提唱する内容となっております。なにとぞご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017 年 8 月

公益財団法人 関西・大阪 21 世紀協会
理事長 堀井 良殷

[1] 世界都市・大阪を実現する基本戦略として、1992 年に当協会が掲げた概念。同年に策定した新グランドデザイン（第 2 次）にて、「文化立都宣言」を行った（詳細は資料編参照）